

FUSO

No. 88 | 2024 Jan./Feb.

magazine

特集

FUTURE TOGETHER

ジャパンモビリティショーで
未来を体験する

特別企画

2024年問題にも対応!

物流現場トラブルをズバッと攻略



CONTENTS

3

サステナブルで未来へ向かう
高野商運グループ

6

特集

FUTURE TOGETHER

ジャパンモビリティショーで
未来を体験する

11

特別企画

2024年問題にも対応！

物流現場トラブルをズバッと攻略

14

キャンター60周年特別企画！

最終回 CANTER 検定

15

三菱ふそうからのお願い

16

FUSO INFORMATION

17

今さら聞けないトレンド用語 ビジュアル解説

RFID

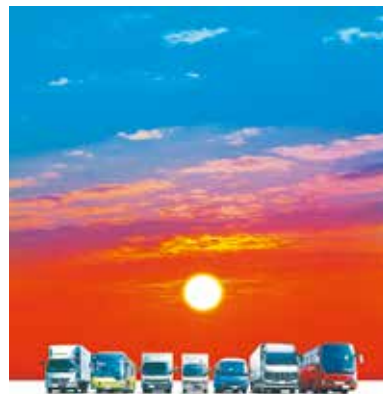
18

Ranking & Voices

19

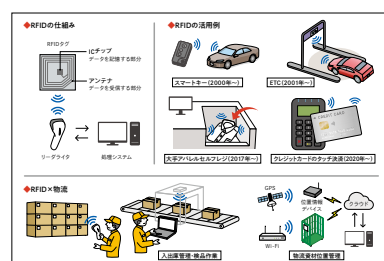
Present / CANTER 検定 解答コーナー

©FUSO magazine 本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断複写、転載を禁じます。



FUSO magazine

No. 88 | 2024 Jan./Feb.



2024.01/02



We are Future-oriented



高野商運グループ



独自戦略で物流会社のイメージを刷新。新時代の地域物流をリードする「人を大切にする経営」とは？

1973年に創業し、現在は株式会社高野商運をはじめ計7社を擁する総合物流グループとして成長を続ける高野商運グループ（栃木県さくら市）。営業地域の集約や集荷～配送までのワンストップ対応の実現、女性の積極採用など、時代を先取る戦略で地域物流に新たな風を起こし続けています。同グループで徹底されているのが、「人を大切にする経営」。物流業界が慢性的な人手不足に悩む中、同グループでは20歳代から60歳代まで幅広い年齢の社員が性別を問わず、生き生きと働いています。働き手をひきつける物流会社のロールモデルとして注目を集める同グループについて、高野和久代表にお話を伺いました。



高野商運グループ
代表

高野 和久氏

創業50周年、
地域に愛される物流会社へ

——まずは、貴グループの概要を教えてください。

高野商運グループは、関東エリアで共同配送と保管業務を手掛ける株式会社高野商運、主に栃木県内でラストワンマイル配送を行う「ロジサポート」、青果の生産・加工・販売を行う「農業生産法人和みの杜」など計7社を擁し、従業員464名、保有車両総数501台（いずれも2023年11月現在）体制で、従来の「運送」の枠にとられない総合物流グループとして、日々挑戦を続けています。

創業当初は北海道から九州まで長距離運送を手掛けていましたが、事業効率の面で問題が多かったことと、独自性のある輸送スタイルを確立したいとの思いから、2003年に方針を転換。東日本エリアに事業を集約して共同配送に着手したこと、そして用途に応じた車両を幅広くラインアップして「集荷・幹線・配送」までをワンストップで完結できる体制



「社員は家族」と、想いを熱く語る
高野代表

を整えたことが、大きなターニングポイントとなり、結果として事業拡大につながりました。ここ数年はコロナの影響でECがより浸透し、ラストワンマイル配送の需要が急拡大。以前に増して地元・栃木県のお客さまからのニーズの高まりに確かな手ごたえを感じているところです。

サステナブルな経営には「人材」が不可欠

——物流業界にとって大きな課題である「2024年問題」には、どのように取り組んでいますか？

2024年問題は、労働時間を順守すれば解決できる問題ですから、数年前から取引先の皆さまと課題共有しながら、新法に対応できる体制を肅々と整えてきました。その一環としてDX化にも必要な範囲で取り組んでいます。幸いなことに当グループでは社員が家族や知人を紹介してくれることも多く、いわゆる労働力不足の悩みはほぼありません。年齢や性別を問わず、さまざまな個性を持った人材が生き生きと働いてくれていることは、経営者である私にとって何よりの喜びであり誇りでもあります。これからも、まずは大切な社員の雇用を守ることを最優先とし、やみくもにDXを進めることは避けたいと考えています。

託児所・保育園を設置。誰もが安心して働ける職場に

——人手不足に悩む企業が多い中、なぜ貴グループには人材が集まるのでしょうか？

これまで20年以上にわたって、地道に「人を大切にする経営」を徹底してきたからだと自負しております。もちろん、最初から順調だったわけではなく、私が創業者である父を助けるために20歳代後半で入社した当時の高野商運は、福利厚生も社員教育もなく、労働条件もまったく整っていませんでした。結果として、ドライバーや社員に仕事に対する誇りや愛社精神は感じられず、社内はどこか殺伐とした雰囲気。入社以前は大手物流企業で働き、しっかりと社員教育を受けていた私はこの状況にショックを受け、業績向上には経営陣を含めた人材の意識改革が不可欠だと確信。社員一人ひとりに社員教



高野商運グループの女性社員の方々。グループ全体で約2割、女性が活躍しています。

育を実施すると同時に、社員が安心して長く働ける体制の整備に注力してきました。特に30年以上続いている、月に1度の社員研修会では、法令改正や時事問題についての情報や社の方針を共有。社員一人ひとりが高野グループの一員であるという当事者意識を持ち、さらなる成長に向けてワンチームで挑戦できるよう努めています。

さらに、物流企業の泥臭いイメージを払拭し、同時に将来の労働力不足対策に備えるため、女性ドライバーの採用にも力を入れてきました。一般的に女性は家事や子育てとの両立という課題があり、それが障壁となつてなかなか採用が進みません。そこで当グループでは業界に先駆けて企業内に託児所と保育園を設立し、子育て中の女性が安心して働き続けられる体制を整備しました。両施設とも社外の方も利用できるよう

にしており、地域の待機児童問題の解決にも貢献しています。また、女性ドライバーが体力面でもハンディなく働けるように、負担の少ない配送網を構築。初心者にも乗りやすいAT車や小型車を揃えて、徐々に大型車にステップアップしていけるように配慮しています。おかげさまで今では小型〜大型まで計45名の女性



(右) 事業所内保育施設「そらまめ保育園」。(左) 事業所内託児所「ハピネス」。さくら市の待機児童の受け入れを目的としているため、社員のお子さんだけでなく、近隣の一般の方も利用できます。



高野商運で使用している通常のトラック。P3の写真に写っている2台が、創業50周年記念のFSパブコウイングです。

ドライバーが活躍中です。特に最近需要が増えているラストワンマイル配送では個人のお客さまに接することが多いので、人当たりが良く対応が丁寧な女性ドライバーの存在は、当グループの大きな強みの一つになっていますね。

今、当社が人材に恵まれているのは、このように30年近くかけて人を大切にする経営を徹底してきたからこそです。少しおこがましい言い方になってしまいますが、「人が来ない、人が足りない」と嘆くだけでは人は集まりません。これからますます労働人口が減っていく中、サステナブルな経営を実現するには、労働者に「ここで働いてみたい」「ここでなら安心して働ける」と思ってもらえるための企業努力が不可欠なのではないでしょうか。

50周年記念車両を制作 ブランド認知を上げ、 ドライバーの意欲も向上

——人材と並ぶ物流の要・車両についてはどのような戦略を持っていますか？

当グループでは、集荷・配送までを一気通貫で行っているため、それぞれの用途やお客さまのご要望に合わせて幅広いタイプの車両を揃えることを大切にしています。最新鋭の車両に乗務することは、ドライバーのモチベーションアップや維持にもつながるので、新型車両の導入も積極的に進めています。また、ブランド認知向上の観点から、一目で高野商運の車両であることがわかるデザインにもこだわっています。特に10年前の創業40周年から毎年2台ずつ記念に制作しているオリジナルのラッピング車は非常に目立つデザインで地域の皆さまに当グループに関心を持っていただくきっかけになっているようです。創業50周年の節目の年だった2023年には記念に三菱ふそうさんのFSパブコウイングの新車2台を購入し、私が大好きな某映画の鉄人ヒーローにインスピレーションを得たデザインのラッピングを施し、「輸送を通じて社会を豊かにする」という熱い想いを冷まされう、鋼鉄のような強い意志」を表現

しました。

今回に限らず、三菱ふそうさんは車両について何でも相談できる心強いパートナー。当グループの歴史は常に三菱ふそう車とともにあったと言っても過言ではありません。特に急なトラブルにも対応してくれる柔軟で手厚いサポート体制には、いつも感謝しています。車両に関する目下の課題としては、EVトラックなど環境

配慮性能の高い車両の導入がありますが、ぜひ三菱ふそうさんに具体的な車両やその活用法についてご提案いただき、一緒に環境への取り組みを進めていければと願っています。このです。

ホールディングス化も視野に ずっと活躍し続けられる ビジネスモデルの確立を

——今後の展望をお聞かせください。引き続き、共同配送や集荷・配送



高野代表のトラック愛を感じる、社長室に飾られたレプリカ。高野商運グループではさまざまな周年記念などの際にラッピング車をつくっています。

の一気通貫サービスなど高野商運の強みを生かした物流スタイルを駆使して、時代のニーズに定めるサービスを提供し、安全で快適な社会の発展に貢献していきます。また、近い将来にはホールディングス化を目指しており、グループシナジーを生かした事業拡大や新規事業の立ち上げにも果敢に挑戦して参ります。具体的には第一次産業への進出も視野に入れており、高齢になってドライバーを引退した社員の活躍の場を広げていくと同時に、人手不足・後継者不足に悩む農業・漁業の現場の課題解決にも貢献できるビジネスモデルを検討しているところです。創業50周年は、新たなスタートの年。これからも「人を大切にする経営」からブレることなく、前進を続けて参ります。今後の高野商運に、ぜひご期待ください。

——高野社長、貴重なご意見をありがとうございます。

高野商運グループ

〒329-1321
栃木県さくら市馬場132-1
代表
高野 和久
創業：1973年
従業員数：464名
(2023年11月現在)
車両保有台数：501台
(2023年11月現在)



【特集】FUTURE TOGETHER

モビリティショーで 未来を体験する

多くの来場者が訪れた
三菱ふそうのブース

「東京モーターショー」が「ジャパンモビリティショー」と名称を変更し、東京・江東区有明の東京ビッグサイトを中心に開催された。総勢約111万2000人もの人々が訪れ、変わらぬ熱気と人気がぶりを見せてくれた。

コロナ禍の影響などから4年ぶりの開催となり大きな注目を集めた同イベントには、三菱ふそうも出展。ブランドスローガンである「FUTURE TOGETHER」を掲げ、お客さまやステークホルダーの皆さま、そして社会と「共に未来を創り上げる」という想いを積み木（キューブ）に込め、近未来を表現した。展示されたのは、最先端技術を搭載した話題の電気トラック・新型eCanter。そして、大型トラックのスーパーグレートも新モデルとして世界初公開となった。それぞれの乗車体験コーナーには多くの来場者による入場待ちの長い行列ができた。

サステナブルな社会の実現に貢献する製品やサービスを紹介する各コーナーにも、数多くの人たちが詰めかけ、関心の高さがうかがえた。省力化、効率化、安心・安全



(上)大迫力の新型スーパーグレート。キャンペーンガールが華を添えた。(下)新たに架装バリエーションに加わったeCanterのダンプ車両。荷台に乗るタイプのアトラクションで子どもたちを楽しませた。



2021年に新たに掲げたブランドスローガン、「FUTURE TOGETHER」。革新的な輸送ソリューションを通じ、“より明るい未来を皆さまと一緒に実現したい”という意味が込められている。

「共に未来を創りあげる」という想いをキューブの積み木で表現したブース。



ジャパン

2023年10月26日(木)から11月5日(日)まで、東京ビッグサイトで開催された「ジャパンモビリティショー2023」に三菱ふそうが出展。その様子をレポートする。

を支える部品・用品、整備、アフターサービス。また、技術革新が著しいIT・ソフトウェアなど、幅広い分野の製品・技術を紹介する展示物や映像を見つめる来場者からは、さまざまな質問が寄せられ、担当者もその関心の高さに驚くほど。業界関係者ではない一般の方々もワクワクした様子でブース内を回遊していたことが印象的で、目を輝かせながらトラックを見上げる子どもたちの表情を見ていると、三菱ふそうの熱い想いは十分に伝わったようだ。



ワイヤレス充電展示

非接触!? 未来の充電スタイル

未来のスタンダードを目指す、ダイヘン社のワイヤレス充電システム。荷物の積み下ろしの時間などを使って効率よく充電でき、1時間で約100km走行可能だ。

eモビリティコーナー

充電、環境問題…。物流関連の“気になる”に回答

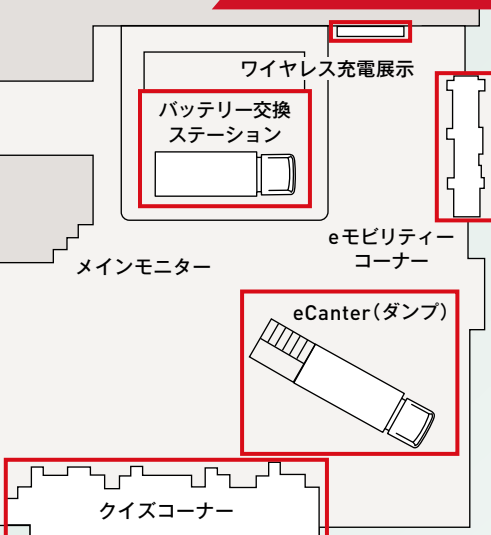


電気トラックの充電器やバッテリー関連についての具体的な質問が多く、関心の高さがうかがえた。車両の稼働状況を見える化する「トラックコネクト」や自動配送計画・配車プラットフォームの「ワイズ・システムズ」も紹介し、訪れた運行管理者から高い興味が。

FUTURE TOGETHER

“一歩先”を堪能せよ

近未来感のある洗練されたデザインの三菱ふそうブース。
その全貌を写真とともに臨場感たっぷりにお届けする。



少し先の世界を先取り
できた喜びと期待感

2023年12月に発売を開始した大型トラック・スーパーグレイトのニューモデルは、スーパーハイルーフ仕様による広々としたキャビンで居住性が圧巻。新型eCanterは荷台に乗れるダンプ車両と運転席に座れるゴミ収集車が用意されたが、非日常的な体験に思わず高揚感を覚えた。
無人で、しかもたった5分でeCanterのバッテリーを交換する最新ステーションや、ワイヤレス充電といった、まさに未来を体現した設備も見逃せない。いずれ身近な存在になるであろう一歩先の世界がいち早く体験でき、興奮と、「早く未来へ」という期待感に包まれた。

eCanter(ダンプ)

AIがイラストを生成！ キッズ用アトラクション



クイズコーナー

クイズに挑戦！ 目指せ“トラック通”

トラックドライバーの運転技術に関する9つの質問に答えるクイズコンテンツ。ゴーグルを装着することで未来感を演出した。



子どもたちが夢中になったのは、新型eCanterに新たに加わった「ダンプ」で行われたAIがイラストを生成する「イーキャンくん」。

乗車体験コーナー

eCanter(ゴミ収集車)、スーパーグレートの 体験コーナーは長蛇の列



世界初公開の新型スーパーグレートと新型eCanter(ゴミ収集車)の乗車体験コーナー。最大70分待ちでも行列は途切れなかった。

未来のドライバー？ 子どもたちに大人気



子ども連れの来場者が多かったモビリティショー。乗車体験は世代を超えて人気だったが、子どもたちの歓声がひととき大きかった。

“四季折々”で活躍する ゴミ収集車を表現



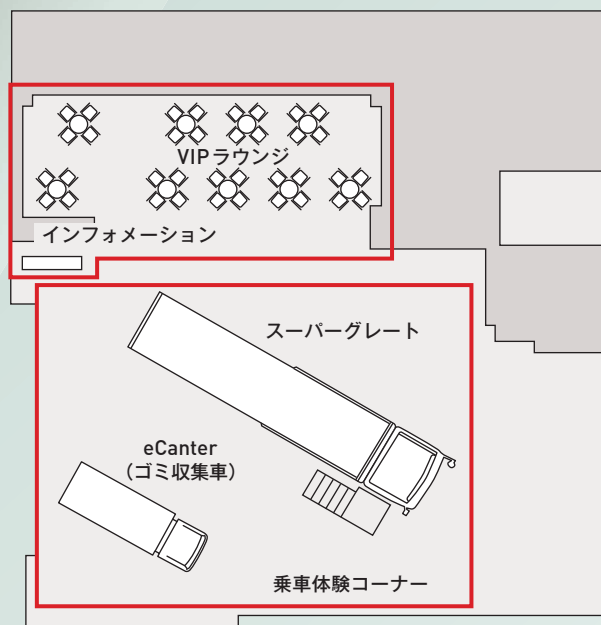
カラフルに変化する照明と音で四季を表現。環境に配慮した新型eCanterのゴミ収集車がすぐ先の未来の街に溶け込み、活躍する様子をイメージしてもらう仕掛けだ。



VIPラウンジ&インフォメーション

インフォメーション& 商談スペース

多くの物流関係者にも来場していただいた。実車や実例を目の前にした商談スペースでは活発なやりとりも交わされた。



バッテリー交換ステーション

アンプル社の無人バッテリー交換を実演

米国アンプル社とバッテリー交換技術を共同実証。アンプル社のモジュールを装着したeCanterが入庫すると、ロボットが自動でバッテリー交換する様子を実演した。



現場担当者の手応えと想い

モビリティショーは、三菱ふそうのスタッフにとっては期待と不安が入り混じるイベント。現場で対応した担当者に、会場で感想や手応えを聞いた。

新型 eCanter



国内販売・カスタマーサービス本部
販売統括部(国内商品計画)

品田 善之

2024年発売！フルモデルチェンジしたスーパーでグレートなトラック

スーパーグレートがフルモデルチェンジをしたのですが、「キャブの形やスーパーハイルーフで空力や収納性を高めたこと」、「エンジンも新たに12.8Lを追加したこと」、「よりパワフルな走りを極め、安全性も高めたこと」などを聞いていただきたと考えていました。実際に見ていただいた方には、フロントマスク、三菱ふそうのブラックベルトについて、「精悍だ、カッコいい」といった感想をいただきましたし、乗車体験コーナーにも予想を超える方々にお集まりいただきました。発売日に向けて、キャラバン車による全国展開を行うことで、さらに多くの皆さんに体験をしてもらい、販売につなげていきたと思っています。



「あっ、eCanterだ！」 子どもの声に驚いた

新型eCanterの魅力をどうアピールするかが今回のテーマでしたが、来場者の方々の反応は予想以上でした。小さなお子さまが「あっ、eCanterだ！」とトラックを指さして言ったときには、「ここまで認知度が高まったのか！」と驚きましたし、感動しました。展示した車両の乗車体験やバッテリー交換のデモンストラレーションにも多くの方々に集まっていただき、関心の高さを改めて感じました。今後は、これまで開催してきた試乗会などを続けるとともに、お客さまの声を聞きながら、次のより良い電気トラックの開発につなげ、電気トラック特有の使い方などを提案していきたいと考えています。

新型 SUPER GREAT



国内販売・カスタマーサービス本部
販売統括部(国内商品計画)

村鳥 慎



大盛況で幕を閉じたジャパンモビリティショー

コロナ禍や名称の変更で、どのような形になるかが注目された「ジャパンモビリティショー」は、盛況のうちに幕を閉じた。フルモデルチェンジしたスーパーグレートの華やかさ、ますます進化した電気トラック・eCanterなど見所がいっぱいの三菱ふそうブースには連日多くの方が訪れた。今後の物流業界を担う三菱ふそうへの期待を感じるイベントとなり、次の開催が今から楽しみだ。



物流現場

トラブルを

ズバツ

と攻略



監修



ロジクエスト株式会社
代表取締役

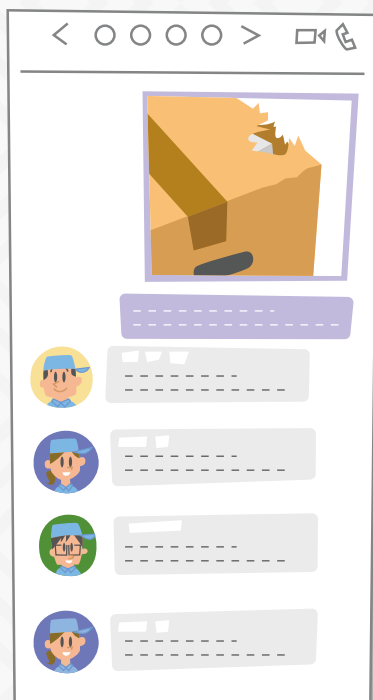
清水 一成氏

ロジクエスト株式会社代表取締役。17年間で計900社、9,000人以上に対して、運送・物流の教育や現場改善を行ってきた実績を誇る。社名の由来は、ゲームのような感覚で物流を楽しんで学んでもらえる企業にしたいという思いから。

現在物流の現場では、2024年問題をはじめとしたさまざまな問題が発生しています。しかしそういったトラブルの改善方法は意外とわからないのではありませんでしょうか。今回は“物流現場改善のプロ”の目線で、頻出トラブルの対処法をご紹介します。

Q1

商品事故が多発してしまう…



A

どうして事故が起きたのか、
ドライバー同士で**情報や状況**
共有するようにしましょう！

物流現場で最も多いトラブルといえば「荷物の破損」といった商品事故ではないでしょうか。事故の原因はさまざまあるはずですが、事後の情報共有ができていない企業がまだまだ多いようです。ドライバーや得意先と原因や対策を共有することこそ、商品事故の再発防止につながります。また、事故が起きる前に、対策を検討する場を定期的に設けることも大切です。

例えば「この商品は持つ場所に気をつけないと破損しやすい」といった情報を、メッセージアプリなどで共有し、荷役作業について共通意識を持つことで事故の発生率が下がります。さらに、得られた情報をリスト化、マニュアルやチェックシートを用いて、ドライバーに注意喚起することが大切です。その後、得意先とも事故原因や対策の情報共有をしましょう。

今後の事故の再発と事故対応の時間を減らすための投資とあって、積極的に情報共有に時間を割いてみましょう。

Q2

労働時間を短縮しないといけないけど どうしたらいいの？

まさに間近に迫っている2024年問題。働き方改革法案により、4月1日からドライバーの労働時間に上限が課されますが、ではどうやって労働時間を短縮するのでしょうか。3つの視点から解説します。



A1 | 物流に関する体系的な知識を、 検定などでつけてもらいましょう

物流業界で働いている人でも、意外と物流の最近の知識は知らない人が多いもの。長年物流業界に携わっている人ほど、自分の経験値をもとに仕事ができるしまうので、「実は非効率的な仕事をしてしまっている」というケースが多いです。そこでおすすめなのが、ビジネス・キャリア検定試験などの専門的な知識を評価する検定試験。検定を受けることで自身の業務内容に加え、物流業界の体系的な知識がつかます。得た知識を社員同士で共有し話し合うことで、普段の業務のムダを見つけることができるはず。学んだ知識を活用して、現場改善に取り組めば生産性向上にもつながってくるでしょう。

A2 | 紙の作業、本当に必要？ 身近なところからDX化を！

データやデジタル技術を駆使するDX化は近年のトレンドですが、物流業界はDX化が遅れているのが現状です。例えば、いまだに入庫の際に手書きで在庫管理表を記載している企業も少なくありません。手書きだといわゆるヒューマンエラーによるミスも発生しやすいもの。タブレットやバーコードによる管理は、導入が容易で、コストもそこまでかかりません。最初こそ手間がかかったり慣れが必要だったりしますが、長い目で見ればDX化は作業時間削減につながります。



wise systems

三菱ふそうが展開するワイズ・システムズは、機械学習で配送計画を自動で作成してくれる。業務効率化に一役買ってくれる。



A3 | 手積み・手降ろしからパレット輸送へ 荷役作業の大幅短縮を図りましょう

P11のQ1で紹介しましたが、物流業界のトラブルは荷役周りで多発します。現状手積み・手降ろしで行っているところはまだまだ多く、効率がいいとはいえません。その救世主となるのが“パレット”です。パレットを用いると、荷物を落として破損させるリスクが減ったり、積み下ろし時間や待ち時間の削減ができたりと、作業負担の軽減につながります。以前は、パレットの紛失問題や、スペースを圧迫する問題などが取り沙汰されていましたが、近年は、在庫管理が容易なパレットのレンタルシステムや省スペース化されたパレットの開発など、技術革新が進んでいます。ますます物流にとって欠かせない存在となっていくそうです。

Q3

作業時の安全性をもっと向上させるには どうしたらいいの？

A | **労働災害**は身近に潜んでいます！
労災を減らす現場作りに取り組みましょう！

近年ドライバーの労働災害は増加傾向にあり、特に「墜落・転落」は荷役時に多発しやすい身近な事故です。

例えば、多くのトラックに架装されている「テールゲートリフター」(荷物の積み降ろし用の昇降装置)の使用時。便利な装置も適正な使い方を学ばなければ、重大な労災事故につながります。これを受け、労働安全衛生規則の改正により、2024年2月からテールゲートリフターの操作の業務に係る特別教育が義務化されます。

上記は一例で、フォークリフト使用時の接触事故など、現場には労災の原因が潜んでいます。そこで、現場と管理者同士の話し合いや、標識の掲示をして事故防止を徹底しましょう。安全な物流現場を形成することで、事故や労災による損失も減少し、結果として長期的な人財確保や健康管理に関するコスト削減にもつながります。



Q4

企業全体でもっとステップアップするには どうしたらいいの？



Gマーク制度

輸送の安全の確保に積極的に取り組んでいる事業所を認定する制度



働きやすい職場 認証制度

自動車運送事業において、運転者の労働条件や労働環境について一定の基準を満たしている「働きやすい職場」として認証する制度

A | **Gマークなどの認証制度**を侮るべからず！
荷主も就活生もチェックしています！

「Gマーク」や「働きやすい職場認証」といった認証制度を聞いたことがある人は多いでしょう。すぐ結果につながらないことから認証取得を敬遠してしまう企業の話をよく聞きますが、認証制度は企業の印象を決める大きな要素の一つで、取得しない手はありません。大手の荷主や就活生がこのような認証制度を判断基準に、取引先や就職先を選んでいるという話も聞いたことがあります。認証は取るのに時間がかかりますが、会社一丸となって認証獲得に取り組む価値は大いにあります。ぜひステップアップのために取り組んでみてください。

最後に

品質 = 人質^{じんしつ}の意識を！

いまやサービス業界ともいえる運送・物流業界にとって、一番大事なのは人の質(人質)です。運送・物流業界のさらなる発展のために、経営者は知識や情報をアップデートし、人材を積極的に育成していきましょう。社員こそが最大の経営資源です！



／ キャンター 60周年特別企画！／
最終回 **CANTER検定**

2023年に誕生から60周年を迎えたCANTER。
その歴史を振り返ってきた「CANTER検定」も、
ついに今回が最終回。ぜひ挑戦してみてください！

今回は10年代後半～現在までを振り返ります！

問1

2016年、「キャンター E-CELL」の後継となる小型電気トラック「eCanter」を、海外のモーターショーで世界初公開。なんと〇〇km以上もの航続距離を実現しました。

- A 50 B 75 C 100



問2

2019年の東京モーターショーにて、コンセプトカー「ATHENA(アテナ)」を発表。国土舘大学 防災・救急救助総合研究所と共同で開発した本車両は、キャンターの4輪駆動モデルを、ある目的のために改良しています。その目的とは一体何でしょう？

- A 救急搬送用 B 災害救助用 C 移動診療用

問3

2020年10月に9代目となるキャンターを国内で発表。本モデルには、フロントに三菱ふそうの新たなアイコンとなる特徴的なデザインを施しました。

- A フロントに「ブラックベルト」を採用
B グリルに「ブルーライン」を採用
C トップマークを「CANTER」に変更



問4

2022年に発売されたeCanterの新型モデルは、車体内部の構造を変えることで、バリエーションを計〇型まで拡大させることに成功しました。生誕から60年を超えた今でも進化を続けるキャンターは、これからもさらなる高みを目指します。

- A 14型
B 21型
C 28型



👉 正解はP.19をチェック！

長期使用車両の 灯火装置の点検について

車両を長期間使用することでランプのバルブやソケットが発錆し、
著しい発熱により車両火災となる事例が発生しています。
そこで、灯火装置のバルブ及びソケット部の定期的な点検をお願いいたします。

！ 灯火装置の定期的な点検を心がけてください！

車両を長期間使用することにより、ランプのゴム類(パッキン、ソケットのOリング等)が経年劣化で硬化し、シール性が低下していきます。そのような状態で使用を継続するとランプ内が結露しやすくなり、バルブあるいはソケット部の発錆(錆が発生すること)により抵抗値が増加。著しい発熱により車両火災となる事例が発生しています。樹脂製ランプは、長期間使用するとレンズの白色化、曇り等が発生しますが、このような状態のランプはゴム類が硬化し、シール性が低下している可能性がありますので、バルブ及びソケット部の定期的な点検をお願いいたします。バルブあるいはソケット部に発錆、変色、破損等が認められた際には、新しいバルブ、ソケットに交換をお願いいたします。

● 灯火装置の 位置と名称を チェック



● レンズ部の曇りの状況



フロント方向指示灯の曇り

● ソケットの腐食状況とバルブの曇り状況



ソケットの腐食



バルブの曇り

● 不具合事例



● ランプ類の日常(運行前)点検について

- 運転席の各スイッチを作動させ、各ランプの点灯、点滅状態を点検します。
- ブレーキペダルを踏み込んで、ストップランプが点灯するか確認します。
- ギアを後退にしたとき、後退灯が点灯するか確認します。
- 各ランプ類のレンズの汚れや損傷がないか点検します。
- 点検で点灯や点滅しないときは球切れやヒューズ切れが考えられます。不具合部品を交換してください。
- 不具合部品を交換しても点灯や点滅しないときは、お近くの三菱ふそうサービス工場で点検をお受けください。

注意！

- バルブは必ず規定の物(電圧、ワット数)を使用してください。
- バルブの交換を行うときは必ずスタータースイッチを“LOCK”に、各スイッチを“OFF”にしてから行ってください。

※車種・モデルにより点検方法が異なります。詳しくは各車両の取扱説明書を確認の上、忘れずに日常点検・交換を行ってください。(掲載している内容は中型トラックを例として掲載しています。)

点検・整備についてご不明点などございましたら、お近くの三菱ふそうサービス工場にお問い合わせください。

イベント

山形県内初の新型「eCanter」を 第一貨物株式会社に納入

2023年12月11日、山形県山形市に本社を置く第一貨物株式会社に山形県内初の新型「eCanter」を納車するとともに出発式が執り行われました。

従来より環境対応車の導入に積極的であった同社の米田社長からは、「新型eCanterとなり従来モデルより航続距離が1.4倍となったことで、当社の実運用で十分対応できると判断し導入を決めた」とコメントがありました。また、今後も環境に貢献すべく環境対応車の導入を進めていきたいとお話もありました。

まずは、基幹支店である山形支店と東京支店、大阪の門真支店で導入をいたします。

当日の出発式には、山形運輸支局長、山形県トラック協会会長をはじめ、山形県内のメディア各社など多くの方が参加しました。



イベント

富士スピードウェイの トラックショーにて 新型「eCanter」の試乗会を実施

2023年10月29日に静岡県富士スピードウェイで開催された「オートメッセリアル×ジャパントラックショー in 富士スピードウェイ2023」にて、新型「eCanter」の試乗会を実施しました。

新型「eCanter」は、EVトラックならではの静かさやパワフルさが特徴。試乗会では勾配がある坂道発進において、搭載された積荷を意識させない加速を体験していただきました。

イベント

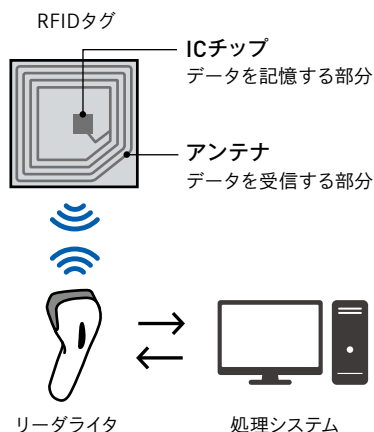
川崎国際環境技術展にて 新型「eCanter」の塵芥車を展示

2023年11月15日・16日の2日間にわたり、神奈川県のカルッツかわさきで開催された「第16回川崎国際環境技術展」にて、新型「eCanter」が展示されました。同展は、川崎市が有する優れた環境技術を広く情報発信するとともに、販路の開拓につながるビジネスマッチングの創出を目的にした展示会です。

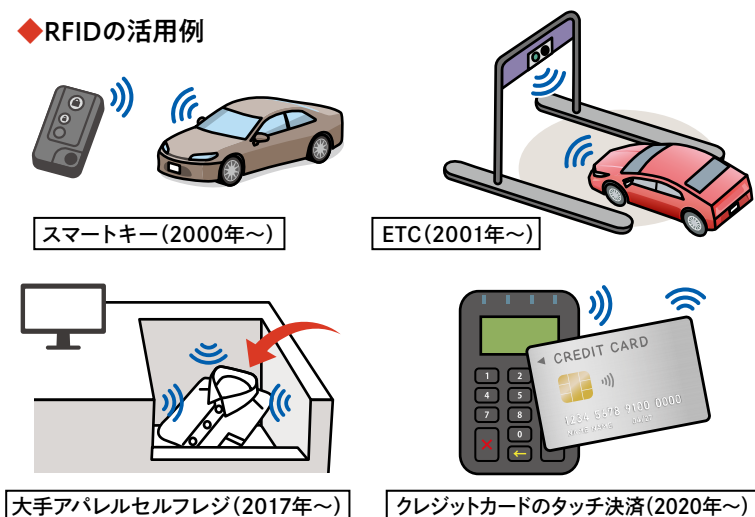
都市の騒音問題解決やカーボンニュートラル社会を実現する車両として、新型「eCanter」の塵芥車が展示されました。昨年より来場者が増え、関心の高まりが感じられました。



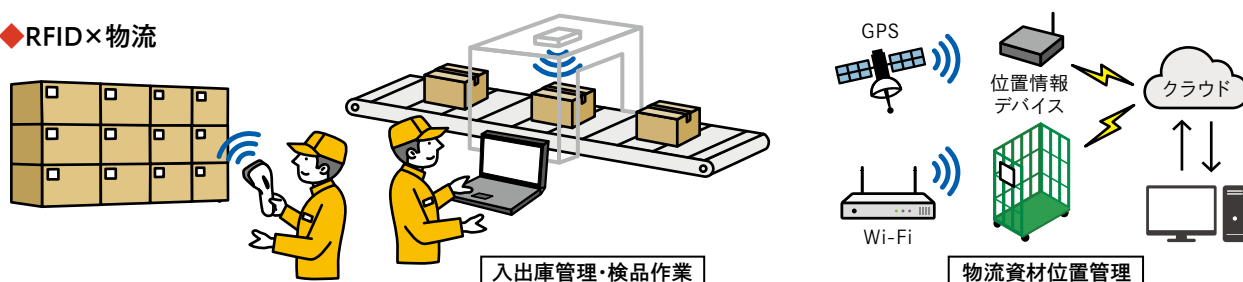
◆RFIDの仕組み



◆RFIDの活用例



◆RFID×物流



【 R F I D 】

Radio Frequency Identification

今さら聞けない

トレンド用語

ビジュアル解説

R F I Dとは、RFIDタグやカード、ラベルに記憶された個別情報を、無線通信によって読み取り・書き換えする自動認識システムのことです。①リーダライタが電波(情報)を発信②RFIDタグが受信しICチップが起動③ICチップ内の情報をRFIDタグが発信④リーダライタが電波(情報)を受信⑤受信した内容が上位システムに送信されて処理される——という仕組みです。

RFIDは、①非接触なので離れていても隠れていても読み取り可能、②複数のタグを一括して読み取り可能、③バーコード・QRコードに比べ容量が大きく書き換えが可能、④ICチップは複製が困難でセキュリティに優れている、⑤小型・長寿命で耐久性にも優れる、など数々の優位性を持つ幅広い領域で活用されています。特に、梱包された状態で一括読み取りができることから、在庫管理や棚卸しといった作業の効率化に力を発揮し、小売業・物流業で導入が進んでいます。

他にも、例えば、工場の作業者の制服にRFIDタグを組み込むことで人の動きを可視化して人員配置の最適化を図るなど、さまざまな活用用途が模索されており、経済産業省もRFIDのさらなる活用拡大に向けて実証実験等の取り組みを行っています。

経済産業省の実証実験

経済産業省は、電子タグ活用の有効性を検証するため、2020年に複数のコンビニと連携して「食品ロス削減に向けた実証実験」を、2023年に民間企業12社と協力して「大規模災害時を想定した被災地向け生活必需物資の共同配送の実証実験」を行っている。

RFIDの電波

国内のRFIDは、4種類の電波の周波数帯を使っている。自動車のスマートキーなどが使用するLF帯と、交通系ICカードなどが使用するHF帯は、電磁誘導で通信を行い、通信可能範囲は狭い。小売業・製造業の商品管理等に使われるUHF帯と、製造ラインにおける個体識別などに使われるマイクロ波帯は、電波で通信を行い、通信可能範囲が広く速度も速い。

Ranking & Voices

三菱ふそうユーザー

三菱ふそうユーザーの皆さまのパーソナルに迫るアンケートを実施。
さまざまなご回答の中から編集部がピックアップしてご紹介します。
引き続きプレゼント応募フォームからのご回答をお待ちしております。

皆さまの声を
お聞かせください！



2023年11/12号のアンケートテーマ

運転中の寒さ対策、どうしてる？

熱湯の入ったペットボトルを
持ち込みます。首筋に間接的に
当てれば、すぐに身体中が
汗ばみます。

岡山県・女性



編集部より

首こり・肩こりの緩和にもつながるかも
しれませんね♪

外出時は着ぶくれするのが嫌
いなので、薄くても暖かいイン
ナーを着るようにしています。

石川県・男性



編集部より

ハイテクインナーは冬の必需品ですね！

ブランケットを常に常備して
います。寒さが厳しいときは
腰から太ももをグルグル巻き
にして運転しています。

香川県・男性



編集部より

この季節はブランケットを置いておくと、
何かと便利ですよね◎

あったか〜い飲み物を常備。
柚子蜜のお湯割りが好きです！

愛知県・男性



編集部より

ホットドリンクは気分転換にも◎

車内はとても寒いので、着る
毛布を着てます。動いても手
足が動かせるのでオススメです。
それでも寒いときはフッ
トアーマーをプラス。とにかく
たくさん着ます。

鹿児島県・女性



編集部より

着るタイプの毛布、私も愛用しています♪

まとめ

大多数の方が体を温めることで
防ぐ中、「車に乗る前に気合いを
入れる」というタフな方も……
無理をせずお気をつけくださ
い！

「おせち料理」の定番の一品といえど？

田作りです。

昔は火鉢でゆっくりと
カラカラに炒り上げてから
餡に絡ませていました。

青森県・男性



編集部より

田作りって、そんな風にするんですね！

福山の田舎に住んでいるので
昔からクワイを食べています。
ただ小さい頃から苦手で家族
から1つでも食べるようにと
言われていましたね。

広島県・男性



編集部より

クワイという野菜があるんですね、初めて
知りました！ 食べてみたい……

ブリの照り焼き。

富山の冬の名物品がおせちを
一層引き立ててくれます。

富山県・女性



編集部より

私もブリの照り焼き、大好きです！！

やはり昆布巻きです。野球で
いったら捕手的な立ち位置で
しょうか。よろこぶとの語呂合
わせて、昔から縁起物として
かかせない存在だと思います。

千葉県・男性



編集部より

昆布巻きがおせちに入っている理由、初
耳でした！

数の子。

キラキラした感じの色と
コリコリ感が

祝いの日に合っているの。

埼玉県・男性



編集部より

程よいしょっぱさでお酒にも合います
よね♪

まとめ

他にも伊達巻きや黒豆、栗さん
とんといった定番がズラリ。お
せちって正月限定の特別感があ
りますよね♪ 皆さま、良いお正
月をお迎えください！

次回の募集テーマは…

今年のGW、何をして楽しむ？

待ちに待ったゴールデンウィークがもうすぐ到来！
皆さま、今年はどんな風を楽しむ予定ですか？ そ
の過ごし方を選んだ理由も併せて教えてください。

長距離ドライブで 便利だったグッズは何？

長距離ドライブを快適に過ごすため、最近ではさま
ざまなグッズが発売されています。そこで、皆さま
が今まで使った中で特に便利だったグッズを、理
由と併せて教えてください。

▶ ご回答いただいた内容は「2024 03/04号」にて掲載の予定です

アンケート回答方法

スマホ & PC から簡単にご回答いただけます

スマート
フォン
から



PC から



<https://forms.gle/sfabHLuo1SCcNbP46>

回答締切

2024年2月29日(木)

※ご記入いただきました内容は「FUSO magazine」誌面充実のためにのみ利用させていただきます。ご本人の同意なく、個人情報を第三者に開示することはいたしません。個人情報に関するお取り扱いにつきましては、三菱ふそうトラック・バスのホームページをご覧ください。

プレゼント応募も
同時にOK



Present

アンケートにご協力いただいた方に
貴重なサイン色紙やFUSOオリジナルグッズをプレゼント!



高級タンブラー
2名様

エコバッグ
5名様



オーガニック
ソフトタオル
5名様



スタンド
ワイヤレス
充電器
5名様



三菱鉛筆
3色ボールペン
5名様

応募方法



スマートフォンから



PCから

<https://forms.gle/sfabHLuo1SCcNbP46>

応募締切

2024年
2月29日(木)

※ご記入いただきました内容は「FUSO magazine」誌面充実のためにのみ利用させていただき、ご本人の同意なく、個人情報を第三者に開示することはありません。個人情報に関するお取り扱いにつきましては、三菱ふそうトラック・バス ホームページをご覧ください。



／キャンター60周年特別企画！／

最終回 CANTER検定 >> 解答コーナー



問1

2016年、「キャンター E-CELL」の後継となる小型電気トラック「eCanter」を、海外のモーターショーで世界初公開。なんと〇〇km以上もの航続距離を実現しました。

答え C 100

短距離輸送や市街地輸送に最適な車両を目指して作られたeCanter。当時日本で市街地を走っていた小型トラックの航続距離は、大半が50km程度であるのに対して、eキャンターは100km以上も走行することができました。



問2

2019年の東京モーターショーにて、コンセプトカー「ATHENA(アテナ)」を発表。国士舘大学 防災・救急救助総合研究所と共同で開発した本車両は、キャンターの4輪駆動モデルを、ある目的のために改良しています。その目的とは一体何でしょう?

答え B 災害救助用

本車両は、「All Terrain Heavy Emergency Navigation Advantage」の頭文字と、ギリシャ神話の女神の名から命名されました。災害現場の状況に合わせて積載物品や装備品を組み替えられるだけでなく、情報収集用のオフロードバイクも搭載されています。



問3

2020年10月に9代目となるキャンターを国内で発表。本モデルには、フロントに三菱ふそうの新たなアイコンとなる特徴的なデザインを施しました。

答え A フロントに「ブラックベルト」を採用

1960~70年代、三菱ふそうのトラックに使われていた左右に貫通する黒いグリル。この伝統的なデザインを元に生まれた、ブラックベルトを採用しました。ブランドのアイデンティティを表したこのアイコンは、2023年10月に発表された「新型スーパーグレート」にも使われており、三菱ふそうのトラックが持つ力強さを表現しています。



問4

2022年に発売されたeCanterの新型モデルは、車体内部の構造を変えることで、バリエーションを計〇型まで拡大させることに成功しました。生誕から60年を超えた今でも進化を続けるキャンターは、これからもさらなる高みを目指します。

答え C 28型

ギア、モーター、インバーターなどが一体になった「e アクスル」を採用することで、コンパクトな構造にアップデート。その結果、空いたスペースにバッテリーを置くことができ、シャシのバリエーションを28型まで増やすことができたのです。



➡ 問題はP14にあります。

その進化は、すべての人のために。

地球で暮らすすべての人々の生活が、環境が、時代が、変わりゆく今。

持続可能な社会を、次世代へと繋いでいくために。スーパーグレートは、さらなる進化を遂げました。

働き方を変える、新たな快適性を。環境に経営に、新たな効率性を。安心も信頼も届ける、新たな安全性を。

暮らしを支える輸送を進化させることが、人と社会に次なる未来を導くと信じて。

社会をよりよく動かしていく進化を、さあすべての人のために。



新型 **SUPER GREAT** Debut!

トラック・バスのお問い合わせは、三菱ふそう販売店へ



三菱ふそう
公式アカウント



スマホのカメラでQRコードを読み込むだけ！

三菱ふそうトラック・バス株式会社

www.mitsubishi-fuso.com